

数学科教育法Ⅱの授業評価

所属講座：数学教育講座 氏名：藤本義明

1. 授業の概要

数学科教育法Ⅱの受講者は、教育学部生約20名、理学部生約40名である。受講生が多く、基礎を学ばせる授業であるので、基本的に講義形式で行っている。

2. 評価方法

授業の評価は、アンケート調査によって行った。質問項目は以下の7つである。

- 1：私はこの授業に意欲的に取り組んだ。
- 2：この授業の目的は明確であった。
- 3：担当教官の話し方や指示は明瞭で聞き取りやすかった。
- 4：授業の内容・レベルは私にとって難しすぎた。
 - 4 a. 図形
 - 4 b. 課題学習・選択教科
 - 4 c. 指導法
- 5：宿題や予習があった方が良い。
- 6：教室が広すぎると思う。
- 7：評価に直結するテストの回数は何回が適当ですか

1～6については、以下の数値

- 5：全くそう思う 4：少しそう思う
 3：ふつう 2：あまりそう思わない
 1：全くそう思わない

7については、適切な数値を答えるものとした。

3. 結果

	教育	理	全体
1	4.0	3.6	3.7
2	3.9	3.4	3.6
3	3.4	3.1	3.2
4 a	2.5	3.1	2.9
4 b	2.4	3.0	2.8

	教育	理	全体
4 c	2.1	2.9	2.7
5	1.8	1.7	1.7
6	3.5	3.1	3.2
7	2.4	2.1	2.2

4. 分析（1～4、6）

<1、2、3について>

授業への取り組みの意欲、授業の目的、話し方等、授業の基本的はあり方については、やや良好な傾向であった。理学部生より教育学部生がより良好であった。

<4について>

授業内容のむずかしさについても、やや良好な傾向であり、教育学部生の方がより良好であった。

<6について>

教室が広過ぎると感じていたが、学生にとってはあまり気にならないようである。

5. 「授業時間外学習」の促進（5、7）

学生にとって数学教育は初学習の内容であり、講義内容を理解する段階であるので、授業時間外学習を主体的に学ぶ場とすることは難しい。アンケート項目6で、学生も同様な意識でいるようである。授業時間外学習としては学んだことを復習する時間とすることがふさわしいと考える。そのため、現在、2回行っているテストの回数を増やすことによって、授業外学習として復習する機会を増やしたいと思う。これについて、学生の側の希望をアンケート項目7で調査した。結果は、現行の2回程度を適切とする回答がほとんどであった。学生の希望を考慮しながらも、テスト回数の増加を図りたい。